

基本計画



基本計画の位置づけ

1 基本計画策定の目的

この基本計画は、基本構想で掲げた将来都市像「自然と歴史文化が調和し 人が輝く やすらぎの生活都市 ~自立と協働による個性あふれるまちづくり~」を実現するために、優先的に取り組むべきリーディングプロジェクトや施策、主要事業を明確にし、それらを体系的に示すために策定するものです。

2 計画期間

計画期間については2007（平成19）年度から2016（平成28）年度までの10年間とします。なお、計画開始から5年後には社会情勢の変化を踏まえた中間見直しを実施します。



リーディングプロジェクト

1 リーディングプロジェクトとは

リーディングプロジェクトとは、厳しい財政状況のなか、限られた財源を必要な施策に集中的に投下することにより、第4次八幡市総合計画におけるまちづくり¹の重点目標を明確にし、総合計画の成果を目に見える形で実現することをめざすものです。

2 5つのリーディングプロジェクト

この基本計画では下記の5つをリーディングプロジェクトとします。なお、各プロジェクトは、これまでの本市の取組やプロジェクトの性質を踏まえ、重点的に取り組む時期を前期・後期・全期間の3つに分けることとします。

プロジェクト名と取り組み時期

プロジェクト名	期 間	
	前期 (平成19～23年度)	後期 (平成24～28年度)
(1)市民協働推進プロジェクト	重点的に取り組む期間	重点的に取り組む期間
(2)放生川再生プロジェクト	重点的に取り組む期間	重点的に取り組む期間
(3)住宅・住環境整備プロジェクト	重点的に取り組む期間	重点的に取り組む期間
(4)組織間協働による人づくり・地域づくりプロジェクト	重点的に取り組む期間	重点的に取り組む期間
(5)交流拠点整備プロジェクト	重点的に取り組む期間	重点的に取り組む期間

▶: 重点的に取り組む期間

◀: 試行的、継続的に取り組む期間(準備期間及びフォローアップ期間)

(1) 市民協働推進プロジェクト

概要

市民、NPO²、事業者、行政が協働³により取組を進めていくことができるよう、その活動の基盤となる拠点づくりを進めます。

取組内容

市民活動拠点(NPOセンター、市民活動情報センター、市民パートナーシップステーションなど)の設立
男女共同参画⁴ルームの整備

1 まちづくり：2ページ参照。

2 NPO：2ページ参照。

3 協働：2ページ参照。

4 男女共同参画(社会)：男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保されることで、男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、ともに責任を担うべき社会。

子育て支援総合センターの整備
リサイクルセンター（環境学習機能）の設置

プロジェクトの背景とねらい

これからのまちづくりを進めていくためには、市民、NPO、事業者、行政が対等の立場に立って協働により取組を進めていくことが重要です。本市ではすでにNPOや市民による自主的なまちづくり活動が行われていますが、その活動の拠点となる施設の整備が求められていました。そこで、学校再編整備に伴う跡地利用の検討の一環として、既存施設を有効に利用して、市民参画、市民協働、市民活動の核となる拠点を形成します。

プロジェクトの実現によりめざす姿

子どもから大人まで市民だれもが、いつでもまちづくりの最新情報に触れることができ、学校や職場以外で、また世代を超えて、明日の八幡について仲間と語り合います。

そして、行政とともに、これからも住み続けたいと思える「ふるさと八幡」に向けて、まちづくり活動や社会活動に参加し、交流の輪を広げます。

(2) 放生川再生プロジェクト

概要

放生川（大谷川）の水流を確保し、たいこ橋（安居橋）周辺を名実ともに市民や来訪者がつどう市のシンボルゾーンとします。

取組内容

再生水を放生川に放流するなど水流の確保
放生川及びその周辺地域の整備



放生川にかかる安居橋

プロジェクトの背景とねらい

放生川をはじめとする水辺環境や景観の整備は従来から市民の要望の多い事項でした。このプロジェクトが実現すれば子どもの水遊び場としても活用でき、市民のふれあいとやすらぎの場とすることができます。また、「石清水八幡宮 たいこ橋 東高野街道 松花堂美術館」とつづく観光ルートの形成にも寄与します。さらに、放生川では河川清掃の市民活動が行われており、このプロジェクトを通じて市民と行政の協働活動の先駆的な取組としていくことが可能です。このほか、京阪八幡市駅の駅北整備との連動や再生水の利用を通じた「環境自治体宣言⁵のまち」としてのPRなど、幅広い効果が期待できます。

プロジェクトの実現によりめざす姿

八幡市駅からたいこ橋までの石畳の道は、右に八幡さんがあり、左に放生川が流れ、訪れる人々にやすらぎを与えます。ここから松花堂美術館までの東高野街道は観光ルートとして、また市民の散策ルートとしてにぎわい、商店も活気にあふれています。

市民活動が契機となって清流を取り戻した放生川のほとりでは、観光客や市民が憩い、子どもたちも安心して水遊びができ、「環境自治体宣言のまち」のシンボルゾーンとなっています。

(3) 住宅・住環境整備プロジェクト

概要

市営住宅や男山地域の集合住宅の老朽化に対応して、今後の整備方針を検討し、「やすらぎの生活都市」としての再生を図ります。

取組内容

少子高齢化、ライフスタイル⁶の変化等に対応した住宅・住環境の整備方針の決定方針に基づく整備の推進
独立行政法人都市再生機構（UR）による整備の促進

プロジェクトの背景とねらい

本市はこれまで、京都・大阪という大都市に隣接しているという立地条件を活かして、住宅都市として発展してきました。しかし、本計画の期間中には男山団地の開発から40年を経ること等もあり、快適な住宅・住環境を維持するために、住宅の老朽化への対応は本市にとって大きな課題となると考えられます。そこで、住宅・住環境の整備を、ユニバーサルデザイン⁷等の採用による高齢者等の福祉に対応することはもとより、バスなど市内交通の利便性の向上、地域の商業の活性化等を視野に入れ、一体的な取組として進めます。

5 環境自治体宣言：16ページ参照。

6 ライフスタイル：個人や集団の生き方。単なる生活様式を超えて、その人らしさを示す際に用いられる。

7 ユニバーサルデザイン：文化・言語の違いや、老若男女等の差異、障がい・能力に関係なく、全ての人が利用することができる施設・製品・情報の設計（デザイン）をさす。

プロジェクトの実現によりめざす姿

私たちの「ふるさと八幡」は、京都・大阪に隣接しながらも、先人たちの知恵と努力により多くの自然が残っています。この豊かな自然環境と共生しつつ、利便性の高い交通が確保された住宅地には、子どもからお年寄りまで幅広い世代の住民が快適な生活を送り、地域の商店もにぎわっています。

男山地域を中心とする集合住宅など個々の住居も、ユニバーサルデザイン化が進み、年齢やライフスタイルに応じ、安全・安心・快適な暮らしができるようになっていきます。

(4) 組織間協働による人づくり・地域づくりプロジェクト

概要

子どもの安全対策、地域福祉活動等の自治組織活動を支援するとともに、NPO等との連携を図り、学校、地域、市民、NPOの協働による人づくり・地域づくり活動を促進します。

また、子どもの安全対策とともに、学区を中心とする組織間協働の拠点となる学校施設の耐震化を進めます。

取組内容

- 地域コミュニティ活動の促進
- NPO・ボランティア活動の促進
- 自治会、NPO、ボランティア、関係機関相互の連携強化
- コミュニティビジネス⁸の研究
- 地域通貨⁹の研究
- 学校施設の耐震化計画の推進



有都小学校区における地域での「朝のあいさつ運動」

プロジェクトの背景とねらい

お互いが信頼関係で結ばれ、ネットワークが形成された地域コミュニティは、そこに住む人々に安全や安心、生活の質の向上など豊かな生活をもたらしてくれます。

本市においては、学区を中心に地域特性を活かした自治組織活動が活発に展開されており、また、NPOをはじめとする市民活動も広がりを見せています。このプロジェクトにおいては、このようなコミュニティ活動をさらに活性化させ、各種団体相互の連携による事業効果の拡大を図り、組織間の協働により、コミュニティビジネスの展開など、より多様で厚みのある地域活動の推進を支援します。

また、団塊の世代など増加が予想される定年退職者等の社会参加を促進し、活動の担い手として活躍できる環境を整備します。これらの活動を通じて、地域内の組織や個人がさまざまなネットワークを形成して協働による取組を進め、安全・安心で信頼関係で結ばれた地域づくりを進めます。

プロジェクトの実現によりめざす姿

自分たちが通った、また子どもたちが通う学区は、地域コミュニティ活動を展開していくうえで基礎となる単位です。この学区を中心に、学校、地域、家庭、さらにはNPO、ボランティアが連携し、地域の特性を活かしながら、また定年退職者等の知識や経験を活かしながら、子どもたちの安全・安心を守り、高齢者や障がいのある人たちの生活を支援し、さらにはお祭りなど地域の伝統文化を守り育てる活動が活発に行われます。

そして、行き交う人々が気軽にあいさつをし合えるような安心で明るい、活力ある地域が実現します。

(5) 交流拠点整備プロジェクト

概要

豊かな自然や歴史・文化資源、また地域特性を活かした交流拠点の整備を推進し、市民相互及び市内外の交流を促進します。

取組内容

広域集客交流拠点の整備促進

- ・三川合流周辺
- ・男山周辺
- ・松花堂周辺
- ・流れ橋周辺

生活交流拠点の整備推進

- ・八幡市駅周辺
- ・橋本駅周辺
- ・男山の各地区センター周辺
- ・きんめい近隣公園周辺



きんめい近隣公園の桜

- 8 コミュニティビジネス：一人暮らしの高齢者に食事を届ける宅配サービス、不要品のリサイクル事業、地域の防犯活動など限られた地域に密着した草の根的ビジネス。
- 9 地域通貨：特定の地域に限定して使える通貨で、「円」などの法定通貨外のもの。多くの場合、地域の活性化を目的に設定されている。

複合都市機能拠点の整備推進

・(仮称)八幡ジャンクション・インターチェンジ周辺

水と緑のネットワークの整備推進

プロジェクトの背景とねらい

豊かな自然と歴史・文化資源に恵まれた八幡地域・橋本地域、田園風景と工業団地が融和する東部地域、住宅地として多くの市民が生活を営む男山地域、竹林等の自然と調和しながら近代的な住宅が立ち並ぶ美濃山地域など、本市には多様な地域特性があります。これらの地域特性を活かした市域の均衡ある発展を図るためには、市民交流の推進と観光の振興をめざした交流拠点の整備が欠かせません。本プロジェクトでは三川合流周辺、流れ橋周辺、八幡市駅周辺、橋本駅周辺、(仮称)八幡ジャンクション・インターチェンジ周辺等の整備事業といった関連事業と連携して、交流拠点の整備を進めます。

また、交通の結節点となる八幡市駅のバリアフリー化¹⁰を推進します。

プロジェクトの実現によりめざす姿

本市の多様な地域特性を活かしながら整備され、ネットワーク化された各地域では市内外の交流活動が活発化し、市民交流や観光が進むとともに、市全体としての一体感が生み出されています。

10 バリアフリー(化)：16ページ参照。